

令和3年度 第5回幼稚園等初任者研修報告

11月30日、総合教育センターを会場に初任者研修が開催されました。小学校との接続に関する講義や演習を通して、幼児教育と小学校教育とのつながりや、小学校との連携の必要性について理解し、今後の保育に生かそうとする意欲を持つことを目標に行われました。



当初の計画では、東部、中部、西部に別れ、小学校を会場として授業を参観したり会場校の先生からお話を伺ったりする予定でしたが、緊急事態宣言を受け、総合教育センターにおいて実施することとしました。

今回は、富士市立吉原小学校の小泉京子先生、静岡市立葵小学校の望月美奈子先生にお越しいただき、小学校の生活や学習についてのお話を伺いました。さらに、グループワークにも参加し、まとめの際には、お二人の先生から初任者の疑問に具体を交えて応えていただきました。初任者にとっては、より明確に小学校での子どもの姿をイメージすることができたことと思います。

「たくさんの写真や動画を用いて話をしてくださったので、小学校での子供の姿や生活の様子をよく理解できた。」「小学校の授業参観が無くなってしまって残念だったけれど、今回このような形で子供の様子を聞いたり授業風景を見たりすることができて、とても勉強になった。スタートカリキュラムという言葉はよく聞くけれど、実際を知ることができた。」などの初任者の感想があり、多くのことを学ぶ貴重な機会となりました。

【講義】

「要領・指針における幼小の接続について」

「小学校入学を見据えた5歳児の保育のポイント」



県幼児教育推進室長



幼児教育センター教育支援員

【講話】

「小学校の生活や学習について」

「12年間の育ちを見据えて」



掛富士市立吉原小学校
小泉京子 主幹教諭



静岡市立葵小学校
望月美奈子 教諭

【グループワーク】

「小学校教育との円滑な接続に向けて」



【初任者の感想から】

- ・小学校でも幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識し、園での経験を生かせる環境づくりや指導を行っていることを知ることができた。子供たちが小学校でも前向きに学ぶことができるよう、保育を展開していきたい。
- ・教育要領解説を読んでも、自分の保育にどのように取り入れるか難しさを感じていたが、今回の講義を聞いてとてもしっくりきた。
- ・幼稚園での遊びや学びが、小学校のいろいろな場面につながっていることがよく分かった。幼児の考えや言葉を見逃さず、学びにつなげていくことの重要性を実感することができた。
- ・3歳児の担任だったため、幼小の連携については視野がなく、目の前の保育で精いっぱいだった。講義を通して連携の重要性と具体を学び、さらにグループワークで年少担任としてどのようにとらえ実践していったらよいか話し合うことができた。これからは先を見通した長期的な視点で保育をしていきたい。
- ・1年生では、幼稚園での生活を取り入れていることに驚いた。幼稚園からいきなり小学校の生活に切り替えるのではなく、徐々に慣らし、子供にとって居心地よく活動し学びやすくなるよう配慮されていることを知ることができた。
- ・小学校でどのような授業や活動が行われているかよく分かった。小学校教育との円滑な接続に向けて、子供の興味に共感したり、興味が広がるような環境構成の工夫をしたりしていくことが大切だと感じた。
- ・小学校での生活を動画や写真を通して学び、保育の経験を生かした活動や成長した姿について知ることができた。子供たちが遊び込める環境や興味をもてるような援助を行い、様々な経験を積んで小学校につなげていきたい。
- ・小学校では、幼稚園での遊びの経験を大切にしており、その中で学びを伸ばしていけるように関わっていることが分かった。また、小学校でも「やりたい」と思える環境やじっくり取り組めるような工夫が多くなされていた。
- ・今の小学校はわたしたちの頃とは違い、机に向かうばかりの授業ではなく、子供たちの成長に合わせたものなので、子供たちもとても楽しそうだった。幼小の連携をより大切にしていくと子供たちも過ごしやすかったと感じた。